
ねことこねこ

九木れかにふ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ねことこねこ

【Nコード】

N0189N

【作者名】

九木れかにふ

【あらすじ】

君は猫だ。君は生きる。懸命に生きる。真っ白な身体を撥ねさせて、元気に、君は生きる。生きて、そしていつか、君はそれを知ることだろう。

(前書き)

作者初の二人称作品です。自分なりに深く解釈出来る内容を吟味したつもりですので、何処までも何処までも深読みしてください。望みです。思考の沼に埋まる心地よさを是非、味わっていただければと。では、以下よりどうぞ。

夏のすこぶる暑い日、君は真つ白な体毛の母から生まれた。外の空気に初めて触れて、君は大層不安だった。母親譲りの真つ白な毛に包まれた君は、本能に従って、君の姉や兄と一緒に、出産直後の母の乳をのんだ。君は末っ子で、母の胎内に最後までいたから、妹や弟はいなかった。その事を君が知ることは、無いのだけれどね。

しばらくは兄姉と競い合うように母の乳をのみ、君の目がようやく開いてきた頃、先に生まれていた兄姉達はすでに違う家に行ってしまった。君の母の飼い主がチラシを張ったり知り合いをあたりたりして里親を探していたのが、丁度見つかったからだ。君は結局、君の母の飼い主のもとで母と一緒に暮らし続けることになった。母の飼い主の娘である小さな、それでも猫の君よりは大きな女の子が、君にシロと言う名をつけた。君の母は、既にその子の親にマロンと言う名をつけられていた。君は人間の言葉を理解できなかったが、何度も同じ響きで呼ばれているうちに、シロが自分の名前だと言う事を理解した。君はたいそう利口な猫だった。

君は直ぐにとても立派な雄猫に成長し、君の母と、ほとんど変わらないくらいの体躯になっていた。もう一つ飛びで椅子にも上れるし、少し助走をつければ椅子よりも高い筆筒にだって登れるようになっていた。君はやんちゃもので、たまに走り回って棚の上の花瓶を割ってしまったこともあった。その時、君は君の飼い主に叱られた。言葉の意味は相変わらず分からなかったけど、向けられた怒りから君は自分が怒られている事を判断できた。君は大きくなっても、判断力の高い立派な猫だった。君はまだ甘えん坊な所もあって、寂しくなるといつも君の母にすり寄っていた。君の母は君の事を愛していたから、嫌がる事も無く君をあやした。そうすると大抵、君は心地よさそうに君の母の傍で眠りについた。

君と君の母親の飼い主の娘が中学生になった頃、君はもう十分大人の猫になっていた。君は飼い主の娘に懐いていて、彼女が部活動を終えて夜帰宅すると、真っ先に彼女の元へ駆け寄っていた。頭を撫でられて、君は嬉しそうに鳴いた。長くて先っちょがふわふわしている植物が、君は大好きだった。君の飼い主の娘の手でそれが揺れると、先端目がけて君はパンチを繰り出していた。遊び疲れると、寝床に戻って丸まった。

君の飼い主の娘が中学を卒業するころ、君の母がことりと息絶えた。君の母は長く生きて、寿命を迎えていたのだ。君は母が二度と目覚めない事を知らなかった。知らなかったから、横たわる白い顔を嘗めてみたりしたが、勿論反応は返ってこなかった。その内つまらなくなつて、君は眠ることにした。太陽が落ちて久しい時間帯だったので、その日の内に母の死に気付いた者は無かった。

次の朝、君の飼い主とその娘は君の母の抜け殻を抱き上げてどこかへ出かけて行った。君はしっかりと留守番をすることにした。じつと待って、君の飼い主とその娘と君の母が帰ってくるのを待った。

一匹で留守番するのは、君は初めての事だった。太陽が一番高いところに行つたあたりで、君は留守番に飽きた。家中を歩き回ると、窓ガラスの向こうの庭に自分と良く似た姿の猫がいる事に気付いた。一目で、その猫が雌である事に、君は気付いた。君は雄で、その上既に大人であつたため、その雌猫と関わりたいと思った。万策を尽くして窓ガラスに立ち向かつたけれど、鍵が閉まつている事に気付けなかった君はそこから庭に出ることは出来なかった。諦めかけて、君はある事に気付いた。さっさと階段を駆け上って君は君の飼い主の娘が過ごす部屋に入った。君の飼い主の娘の部屋の窓は開いていて、そこから直ぐの所に背の高い木がある事を君は知っていたので、窓からその木に飛び移って、君は庭に下りることに成功した。君と庭にいた白い猫は何度か確かめるように鳴き合つて、そして仲良くなった。ほとんどの時間をその雌猫と過ごし、君の飼い主と娘が帰つてきてから、ようやく元の木を伝つて家に戻った。

君の飼い主は君の母の抜け殻を持っていなかった。同様に、君の飼
い主の娘も、君の母の抜け殻を抱いてはいなかった。きっと母は出
かけているのだと思い、君は君の母の留守を守ることにした。君は
君の母がいずれ戻ってくる事を信じていたからだ。日中、君は君の
飼い主とその娘が家を空けることを知っていたので、君は明確な意
志と使命感を持って、空いた家を警備することに決めた。君に良く
似た白い猫がまた庭に訪れることもあったが、君は君の母の留守を
守るため、一階の窓が開いていないときは彼女に近づく事を諦めた。
季節はまた太陽がジリジリと焼きつける頃になっていた。そのため
君の飼い主と娘が留守の日でも一階の窓が開いている事があったの
で、君と雌猫はそれなりの頻度で近づく事が出来た。その内、白い
雌猫の腹には君の子が宿った。

肌寒い季節になってきて、一階の窓が開けっ放しになることが少な
くなってきた。君は君の妻となった白い雌猫と二匹の子を守るため、
庭に行かなくてはならなかったが、君の母の留守を守る使命を忘れ
ていなかったため、君は歯がゆくもそれが出来なかった。

君の妻になった白い雌猫は、ついに満足に歩くことも出来なくなっ
た。出産の時間が近いのだ。君の飼い主とその娘は忙しく、その上庭
には滅多に出る事が無かったためその事に気づかず、君の妻は寒い
季節の中、ずっと庭に居なくてはならなかった。君は君の妻が弱っ
ているのを知っていたが、君の使命のため、彼女を助けることは出
来なかった。

君の妻が弱り切ってしまった頃、さらに良くない事が起こった。動
けない君の妻を狙って、腹を空かした鴉が狙いをつけたのだ。君は
大層焦って何度も君の妻を助けたが、君の頭には君の母の留
守を守る使命が渦巻いていたため、それは出来なかった。

ついに、鴉が君の妻に襲いかかった。固く鋭い嘴で君の妻の足を突
くと、君の妻は甲高い鳴き声を上げて苦しかった。君は我慢の限界
だった。この時、君は母への誓いを捨てると、さっと走って君の飼
い主の娘の部屋へ駆け込み、庭の木へと飛び移った。君はとても勇

敢だった。未だ衰えぬ身体能力を駆使し、君は高い所から君の妻を襲う鴉の背へと躍りかかった。爪を立てて鴉の羽を押さえつけ、牙で噛みつく。鴉は痛み抵抗し、君と鴉は転がりまわって傷つけあった。君と鴉はお互いにボロボロになったが、丁度その時君の飼い主が仕事から帰ったため、君と君の妻は助けられた。鴉は一声甲高く鳴くと、暗く淀んだ空へと逃げて行った。満身創痍ながらも、君は君の妻の傷つけられた足を嘗め、腹に前足を置いてまだ見ぬことを慈しんだ。君はよく戦ったが、最早限界だった。君は連れ戻された君の飼い主の家で、倒れ伏した。君の飼い主は君を近所の動物病院へ連れて行ったが、処置は間に合わず、君はそのまま、君の母の居る所へ逝った。

君の抜け殻は君の母が埋められた墓に入れられ、君の妻は、弱っていたがなんとか一命を取り留め、生き残って、君の子をたくさん産んだ。君の子は、君と君の妻と同じ真っ白な毛をしていた。

君は君の母の元へ逝き、ようやく長い留守番を終えた。

君と君の母は、それから、僕の所へやってきた。良く頑張ったね、と、僕は君の顔を嘗めてやった。君は誇らしげに、にやあと鳴いた。今度は、君が君の子を見守る番だ。

（後書き）

ここまで読んでいただいた方、ありがとうございます。では、少しばかり解釈をば。

語り部は子猫の父親です。分かりますよね、はい。そして、父猫は子猫と同じような運命をたどって死にました。勇敢に、単純明快に、純粋な理由で生きて、死にました。考えられるからこそ純粋から遠のいていく人間には出来そうもない生き様を表したかったのだ。その辺、感じて、少しでも面白いと思ってもらえたのなら、こんな推敲の欠片も見当らない作品が世に出たのにも意味を見いだせる事かと思えます。

では、感想など、お気軽に書きこんで頂けると幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0189n/>

ねことこねこ

2010年10月12日02時10分発行